



やくわえ

増刊号

神道青年全国協議会

創立四十五周年記念号

高円宮殿下御言葉

神道青年全国協議会が本年創立四十五周年を迎え、ここに盛大に記念式典が挙行されることを心よりお祝い申し上げます。

また、ただ今表彰を受けられた皆様方おめでとうございます。

神道青年全国協議会の皆様が神社本庁の指導のもとに、その傘下の有力組織として、長年に亘り力強い活動を行ってこられたことを、同じ世代の一人として大変頼もしく思います。

昨年度は、神宮式年遷宮という大きな事業もあり、皆様も御多忙な一年であったと思いますが、本年は創立四十五周年という節目の年に当たり、また、さらに大きな節目の五十周年を目前に控えて、神青協の活動も益々発展していくものと思います。

世界は、現在非常に困難な時代を迎えています。地球環境、自然動植物の保護を始めとして、イデオロギー対立が減衰したあと、民族、宗教の対立が世界各地で深刻な問題となっております。

神青協の若い皆様方が、我が国や世界の諸問題、平和について、貢献できることは決して少なくないと思います。来るべき創立五十年に目を据え、我が国の伝統ある文化を尊び、また、世界の諸民族、社会固有の文化を尊重し、広い視野に立った、神青協の活動を推進していけることを期待して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

おめでとございました。

神道青年全国協議会創立四十五周年記念大会

報告 御礼

神道青年全国協議会創立四十五周年記念事業実行委員長

篠 直 嗣



本会にとって、又我ら青年神職にとって光栄の至りであり、会の存在・位置等或いは、個々の進むべき路を自覚するに大きな励みの何ものでもないと考える。更に今後、記念事業を実施展開するに当たり、計り知れない力を頂いた思いがするるのである。

畏くも高円宮同妃両殿下の御台臨を仰ぎ、御来賓OB百数十名の御出席のもと、花のたよりも頻りの四月十一日、本会の創立四十五周年記念大会が明治記念館において、参加者総勢四百余名が一同に会し賑々しく開催された。

この大会が現役会員にとって、正に記念となった背景には、御来賓とOB各位の出席数が、史上曾て無いものであったことである。無論、殿下の御台臨・御言葉は、

から約八十名の会員の尊い手伝いを仰ぎ、各位がそれぞれの担当に誠心誠意尽くされ、職務を全うされたその姿は、東京都神道青年会の歴史に残る誇りとなろう。誠に感激の至りである。

本大会を一好機として、東京都神道青年会会員各位の一層の活躍と会の発展を切望するものである。さて、本大会は三部形体により開催されたが、その各部の要点を報告する。

第一部「記念式典」は、午後三時、高円宮同妃両殿下をお迎え致し、阿部副会長開式の辞により、続いて神宮・皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、西高辻会長が会員個々の任務を完遂し、斯界の為に努力すること、更には創立五十周年に向け全国会員一致

団結による将来への誓いを含め式辞を述べた。記念事業経過報告に続き、本会に尽力された三十九名の方々に記念の表彰が行われた。高円宮殿下より御言葉を賜りし後、来賓祝辞・万歳奉唱と感激の渦の中、丹治副会長閉式の辞により式典を閉じたのである。

第二部「記念講演」は、高円宮同妃両殿下御台臨のもと、岡野俊一郎氏により「文化としてのスポーツ」と題し、団体職務（日本サッカー協会副会長・日本オリンピック協会理事他）を務める中に、日頃の思想から日本文化や世界観など奥深い、強烈な講演を行った。終盤には会長との対談もあり、青年神職の我らに強い印象を残したものとなった。

第三部「記念祝賀会」では、一同が懇親を深めると共に、神青協未来永劫の発展と記念事業完遂を祈念しつつ、本周年を祝い合い、午後七時四十分ごろすべての予定を終了したのである。

ここに、記念大会の無事終了にあたり、来賓OB各位と本大会関係各位並びに会場関係者と全国会員の一人一人に重ねて深く感謝の意を表するものである。

我ら現役に課せられる先輩諸兄の熱い想いを、この機に充分意識し、将来の為に確実なる一歩を残さねばならないものと確信した。実に多くの方々に支えられ、有難く貴重なる大会が開催できたことを、各方面各位に対し、特に東京都神道青年会全会員と、更には暖かい応援を下さった東京都神社庁・先輩諸兄に対し、実行委員長として謹んで感謝する次第である。大会当日は、東京都神道青年会

神道青年全国協議会創立四十五周年記念大会を終えて

神青協創立四十五周年記念事業実行委員会

事務局長 富岡茂永

神青協創立四十五周年記念事業のメイン事業として、去る四月十一日、明治記念館に高円宮・同妃両殿下をお迎えして、来賓、招待者、会員三百八十九名（東京からの出席者八十名）参加のもと記念大会が盛大に開催された。

東京都神道青年会では、篠会長が神青協実行委員会の実行委員長を、また阿部監事が神青協担当副会長を務め、実行委員会事務局を渉外部が担当し、一年間の準備期間を要し、四回の実行委員会と八回に及ぶ事務局会議を重ね、当日の式典の準備を進めて来た晴れの日である。

また、前日の四月十日には、神青協西高辻会長、阿部・鈴木・丹治副会長、篠実行委員長、大井派遣理事が、揃って明治神宮を正式参拝し、事の由を奉告した。

当日は、十時半に神青協役員と東京都神青役員、実行委員事務局員が明治記念館に集合、物品の搬

入の後、相生の間にて打合せ、各会場にてのりハーサル、打合せを行い、午後一時からは更に係員が加わり、各担当部署ごとに打合せの後、諸準備に入り、午後二時には受付を開始した。

予定の午後三時を少し回って、阿部副会長の開式の辞により式典が始まり、始めに出席者全員起立のもと、西高辻会長の先導により高円宮・同妃両殿下が御入場、台臨あそばされた。

神宮・皇居遙拝の後、小泉理事の先導により国歌を斉唱、続いて石原理事の先導により、敬神生活の綱領を唱和した。西高辻会長の式辞の後、篠実行委員長が記念事業の経過報告を行い、次に周年記念表彰が行われた。記念式典では、小林敬直元神青協会長を始め、東京の鈴木昭樹・能圓坊明彦・大石定道先輩ら三十九名が、神青協の発展に寄与したと認められ、殿下の御前にて表彰の栄に浴した。

ここで、高円宮殿下のお言葉を賜るため全員が起立し、謹んで殿下の有難いお言葉を拝聴した。

次に来賓を代表して神社本庁白井総長と神宮久邇大宮司が祝辞を述べられた後、神道青年の歌を斉唱、中野参与の先導により、聖寿の万歳を奉唱し、午後四時に丹治副会長の閉式の辞によって記念式典が閉式となった。

午後四時十分から記念式典と同じ蓬萊の間にて記念講話が行われ最初に当日の講師である日本サッカー協会副会長の岡野俊一郎先生入場がされた後、講師共々両殿下をお迎えし、阿部副会長から講師の紹介がなされ、岡野先生の講演が始まった。約一時間の講演の後、西高辻会長が壇上へ進み、岡野先生と会長の対談が約三十分間行われ、午後五時五十分には河村理事の閉会の辞によって記念講演、対談が終了した。

午後六時五分、会場を富士の間

に移し、鈴木副会長の開宴の辞により記念祝賀会が始められた。

会長挨拶に続き、神社本庁阿部長老、明治神宮副島常任顧問、全国氏子青年協議会工藤会長が祝辞を述べられた後、神社本庁白井総長、明治神宮副島常任顧問、西高辻会長、篠実行委員長が壇上に上がり、鏡開きが行われ、新潟県護国神社齋田宮司が乾杯の音頭を取り祝宴に入った。

次に清興の披露となり、事務局長の私から、江戸消防記念会と梯子乗りの紹介をさせて頂き、江戸消防記念会有志の皆さんによる梯子乗りの披露となった。この後、暫時歓談の時間があり、美わしき山河の合唱、吉川前会長の音頭による手締めと続き、最後に篠実行委員長の閉宴の辞をもって、記念祝賀会がお開きとなった。

神青協の四十五年の歴史を振り返り、今後の活動のあり方を考えそして五十周年へ向けての決意を新たにする一日であった。

実行委員会事務局を担当した渉外部の皆様と、当日お手伝いを頂きました東京神青会の役員、委員の皆様衷心より感謝申し上げます。報告記とさせて頂きます。

駆け抜けた青春の日々

—周年事業記念表彰・被表彰者の感想から—



波除稻荷神社

鈴木 昭樹

詐ざる感想は「もう五年たったんだ」です。離れてみて、青年会在籍の約十年程は、あまりにも長く且つあつという間に駆け抜けてしまった時間であつた気がしており、離れた後が時間は短いもの非常に長く感じており、周年大会に出席させていただき最後の青年会のお仕事と思っております。

もうすぐに青年会の第三世代が出席される事と思いますが、その時々々の時代環境があり、連綿と青年会の引き継がれる筋は凛としてあらねばならないものの、他は大いに自由に取り組んで良いのでは。更には「又青年会か」と家庭内

親にも言われながらも現場の自身の社務とは出来る限り離れ、良く集い良く飲んで、良く語らい良く動く、その様で良いのではと思っております。

表彰を受けました事、共に同時代働いた皆様の御蔭と感謝申し上げます。御礼申し上げます。

末筆、青年会の御健闘お祈り申し上げます。



素盞雄神社

能圓坊明彦

この度は思いもかけぬことで恐縮し、関係各位には厚く御礼申し上げます。

当日の記念式典のときであります。

した。

司会者より式典中はポケベル携帯電話のスイッチは切るようにとの案内。両殿下御台臨の有無に拘らず当然のことではありますがお恥ずかしながら言われて初めて気が付くことでした。

青年会は、金と暇のある者の会という批判的な当たらずとも遠からずの言葉がありますが、働かなければ金は無く、やり繰りせねば暇も無し。の訳で、斯界の先兵もよし、語るもよし遊ぶもよし、そして飲むもよしです。

先のポケベル携帯電話ではありませんが、青年会は出席すればしたなりの御土産があつたり、忘れた頃に御土産が届いたりするもので、一声かけられ初めて出席したときの緊張感とつまらなさは今でも覚えていますが、青年会的発想でおこなわれた諸事業等々は、楽しい思い出であり貴重な体験で、肩肘張らずに御指導お付き合ひ下





能圓坊明彦氏
大石 定道氏



鈴木 昭樹氏



戸越八幡神社

大石 定道

此度、神道青年全国協議会創立
四十五周年に高円宮・同妃両殿下
御台臨戴くという、特に記念すべ
き大会にて表彰を受けるといふ身
に余る光栄に浴し大変恐縮してお
ります。
私は東京都神道青年会に入会さ
せて頂いてより、教養部員・事業

さった先輩諸兄に感謝致す次第で
す。
種の尽きない失敗談や武勇伝、
使った金と暇は戻って来ませんが、
この培われた仲間意識と信頼関係
こそ掛け替えのない財産であり、
これからの栄養素。正に「青年会
萬歳」であります。
東京都神道青年会会員の和と輪
が、一声かけて益々緊密に、そし
て拡大されますことを祈念申し上
げます。

部員・広報部員・庶務・事業部長
総務部長・副会長・またその間に
神道協指名理事等をさせて頂き、
現在も尚、監事として末席を汚し
ております。
長々と自分が承った役職を羅列
致しましたが、我ながら随分長期
間に亘り会員の一人として参加し
てこられた事に思いを馳せると、
それは先輩並びに個性豊かな魅力
ある会員の仲間にも恵まれたからだ
と感謝しております。
思い起こせば、サイパン島の慰
霊祭や昭和天皇陛下御座位六十年
奉祝事業としての皇居勤労奉仕や
都内の神社の御神前にお供え頂く
為の大島での塩作り、又、次の世
代の子供達に伝える目的で制作し
た唱歌テープ作り等みんなで協力
し合い小さい乍らも一つの事業に
向かっていったことなどが、つい
この間の事のように思い出されま
す。どれも私にとりましては、忘
れがたい思い出で、貴重な体験で
した。
この紙面をお借りして、これま
でご迷惑ばかりお掛けして、お世
話になった先輩・会員の皆様にお
より厚くお詫び並びにお礼申し上
げます。



『その時、幻と思えぬ
拍手が聞こえた』

―岡野俊一郎氏の講演を聞いて―

小山八幡神社 森田 一

世界では国歌斉唱の時に自然と全員が起立するもので、「ご起立下さい。」と指示を出さなければならぬのは日本ぐらいなのだそうだが。この話には私は、少なからず日本人としてショックを受けた。と同時に、この事は国際交流の上で大きな問題をはらんでいるように思えてならない。

国際交流の中でも市民レベルの文化交流は、究めて重要な役割があると思われる。文化といえばすぐさま文学や絵画、音楽といった芸術を思い浮べるが、岡野俊一郎氏は今回の講演『文化としてのスポーツ』において、スポーツも芸術に負けぬ世界共通の文化であり、重要な位置にある事を話された。確かにスポーツの祭典であるオリンピックは、世界中が注目するイベントであり、見る者に様々な感動を与えてくれる。これは自国の選手たちの活躍に限るものではない。人間の限界を究める一瞬一

瞬に人々は惜しめない拍手を贈るものだ。

岡野氏は学生時代サッカーの日本代表として活躍された方だが、昭和二十八年西ドイツで開かれた第一回のユニバーシアードでのことを次のように語られた。

当時、世界のサッカー界から注目されていなかった日本は、いきなり初戦に強豪西ドイツと対戦した。しかしながら、日本は一進一退の息詰る熱戦をくり広げた。結局三対四で敗れはしたものの、日本の善戦に他国の選手から予想もつかぬ盛大な拍手を受けたという。

その時の感動が、岡野氏に将来の仕事はスポーツに携わる仕事をしたいと思わせたそうだが。後に日本代表サッカーチームのコーチ・監督を経て、財団法人日本サッカー協会副会長・社団法人プロサッカーリーグやIOC等、数多くのスポーツ団体の役員をされていることから岡野氏の感動をうかがいしることができらるだろう。さて、昨年五月十五日に開幕したJリーグだが、岡野氏によるとその理念は当日の川淵チェアマンのスピーチ「スポーツを愛する多くのの人々に支えられ、我々は大き

な夢への第一歩を踏み出します。」に集約されているのだという。

Jリーグはプロのサッカーリーグだけに指すのではなく、(サッカーに限らず)地域に結びついた、自らの意志で楽しむスポーツ文化の運動を行なうのだそうだが。学校で同時に数種の学問を学ぶように、スポーツも同時に数種を楽しむことが出来る、スポーツ文化の拠点を目指しているのだという。

これらは、岡野氏が過去に日本代表として世界中を転戦し、現実を見てきたことから生れてきたのだそうだが。

講演を拝聴するにしがたい、感動とともに私たち神職の重責を改めて感じた。国際化が進むにつれ、私たちは、より世界を見据え、日本人としてのアイデンティティをしっかりと守り伝えていかなければならないのだから。

最後に岡野氏は、昭和二十八年のユニバーシアードでの拍手がまだ耳の奥に残っており、その拍手が聞こえるかぎりスポーツの仕事に携わっていきたくないと講演を締め括られた。その時、私はタイムスリップにあったかのように、当時の拍手が聞こえたような気がした。

神道青年全国協議会

創立四十五周年記念大会次第

〔第一部〕記念式典

- 一、開式の辞
- 一、神宮・皇居遙拝
- 一、国歌斉唱
- 一、敬神生活の綱領唱和
- 一、会長式辞
- 一、記念事業経過報告
- 一、記念表彰
- 一、高円宮殿下御言葉
- 一、来賓祝辞
- 一、神道青年の歌斉唱
- 一、萬歳奉唱
- 一、閉式の辞

〔第二部〕講演

演題

『文化としてのスポーツ』

講師 岡野俊一郎氏

〔第三部〕記念祝賀会

- 一、開宴の辞
- 一、会長挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、鏡開き
- 一、乾杯
- 一、清興(はしご乗り披露)
- 一、美わしき山河合唱
- 一、手締め
- 一、閉宴の辞

記念講演対談録

岡野 俊一郎氏 VS 西高辻 信良氏

西高辻 国旗、国歌について？

岡野 外国で国際試合を見ると、日本と違って、「国旗を掲げ、国歌を吹奏しますので、観客の皆さまご起立を願います」などというアナウンスは一切ありません。両方のチームが入ってきますと、いきなり国歌がジャンと鳴って、十万人以上入っているスタジアムで、全員が立ち上がります。たまに座っているのがあります。日本人です。悲しいですね。

我々は日本に住んでいます。もちろん、国旗がどう、国歌がどうといういろいろな議論があるのは知っています。しかし、いい旗ですよ。ヨーロッパの新聞でも、「SUNRISING COUNTRY」という書き出しがあります。ドイツ語でも、同じように「SONNENAUFGANG STAAT (太陽の昇る国)」という書き方が、試合で勝ったら出てきます。こんなすばらしい旗はないです。そして、すばらしい国歌です。

では、そういうものをどうやって若い人にアピールするか。非常に大事なことは、若い人が何を欲しているかを知ることだと思えます。そういう意味で、Jリーグのやり方が多くの人にアピールしていると思えば、担当者が、自分の考えを押しつけるだけでなく、今の人たちが受け入れるものは何かということを含めた施策をしているからではないかと思えます。

西高辻 国際社会で日本が果たす役割又求められている日本人像？

岡野 臨教審のとき、文部省の社会科担当の人たちに「地理の授業で、世界地図を今のままで使うつもりですか」という質問をしたことがあります。日本の地図は、日本が真ん中にあります。この地図を使っていて、世界の数パーセントです。主流は、ヨーロッパが真ん中にある、大西洋を隔ててアメリカがあり、ずっとこっちはきて初めて日本がでてきます。これを見ることによって、世界の

文明の流れがわかります。そして、彼等がヨーロッパが世界の中心だと思っていることもよくわかりました。これは何を意味するか。我々は世界を知っていると思つていますが、世界は日本を知らないということなんです。そういう現実を、もう一遍、認識しなければいけないんじゃないか。

もう一つは、きわめて残念ですが、まだ日本人はアジアを低く見えています。確かに、我々はアジアの一番進んだ国かもしれませんが、しかし、アジアの仲間が我々日本をアジアと思つているかどうか。非常に大きな問題だと思えます。こういう国際的な環境にいるということを認識して、その中で日本人、日本が何をやるのかを考えなければいけないと思えます。

残念ながら、日本人は世界で一番語学の下手な民族です。これは、植民地にならなかつた幸せな歴史です。高田宮殿下と同妃殿下は英語が堪能でいらつしやるけれども、我々は片言です。こういうことからして、コミュニケーションが下手ですね。外国へ行くとも友達をつくりません。ということは、海外旅行がコミュニケーションの

場になつていないということなんです。そういう意味で、長野オリンピックは大事だと言っているんです。日本は、受信はうまいけれど、発信が下手なんです。しかし、長野でオリンピックをやれば、そこへ来た人、競技、すべてが長野発になります。日本に来た選手たちが日本人とコミュニケーションできるんです。そういうことも、オリンピックをやる意義でもあります。

西高辻 なぜ日本ではボランティアに支えられたオリンピックがでないのか？

岡野 リレハンメルでは一万六千人、バルセロナは六万人のボランティアが活躍したと言われています。これらの人は、開催地まで自分で行きますし、宿泊とボランティアの服装と食事は出しますが、日当はゼロです。しかし、日本では、「日当が出ないんですか」、さらに「宿舎が……」となります。この辺の、ボランティアに対する日本の考え方が、ヨーロッパ、アメリカとは違うと思えます。そして、そういうものを組織の中にとり取り組んでいくかに関して、行政組織も、まだまだ未熟だと思えます。(対談録より一部抜粋)

記念大会に参加して

大鳥神社 堀江 久教

靖国神社 花田 忠正

私は渉外部員として事務局のお

手伝いをさせて頂きました。役員

会にも同席させて頂き、青年神職

のリーダーの方々の討論を聞く事

が出来、大変勉強になりました。

また大会当日は、司会の補佐をお

おせつかり、光栄に思いました。

宮様の御臨席を戴き、盛会のうち

に大会を終える事が出来たのも、

役員の方々の綿密な計画・準備の

結果である事が近くで仕事をさせ

て頂いたおかげで良くわかりまし

た。五十周年の記念事業はどのよ

うになるのか、今から楽しみです。

高輪神社 滝 雅人

私は、警備係でありましたので

式典・講演には出席できず、宮様

のご来席とご退出をロビーにて警

備しただけで懇親会に出席致しま

した。たいへん盛会であり、この

会を成功させる一員となることか

でき、大変よろこばしく思います。

また大学時代の旧友との再会も

よき思い出となりました。

昭和天皇御製

ふりつもる み雪にたえて

いろかえぬ

松ぞををしき 人もかくあれ

萬木落葉した雪中にあつて、独り

青々として色を変えぬ松の雄々し

き姿。

今こそ私どもも、時流に迎合し

て節を交へることのない雄々しき

人物に思いを馳せたいものだ。

布多天神社 野澤康次郎

斯も整然と滞ること無く式典が

進み終了したことに大変感動しま

した。執行部のご苦勞は如何許りかと

存じます。大変に素晴らしい式典

でした。特に高円宮様御夫妻に御

臨席あそばされましたことに感激

いたしました。

また、岡野先生による講演も大

変良かつたと思います。子供たち

を鎮守の杜へ向かわせる一つの方

法を教えていただけたと思いまし

氷川神社 山内 温

鷺神社 石倉 義康

高円宮殿下の台臨を仰ぎ、神青

協創立四十五周年の記念大会が開

かれ、全国の有志が参集した。

神青協の草創は、「過去に於て神

聖とされたものは、すべて冒瀆さ

れ、犯罪とされたことが、今では

先駆的偉業として謳歌された」時

代だった。

占領軍は、国民の神国意識を権

力による強制と誤認し、「天皇制」

「国家神道」などの戦勝勢力によ

る造語の使用が、加担者の間で公

然化するに至った。

大嘗祭以降、国家転覆を謀る分

子の神社攻撃が続く。占領行政の

残滓が今なお活発な証と言えら

る。

自主警備では、事前の犯人駆逐

策を講ずべきである。事後の検挙

に重点を置く警察警備に万全を期

待できない。犯人が常套手段で来

る保証もない。

法は、本殿など、非住居区域へ

の放火を軽く扱うが、神主の立場

は断然、逆である。

「戦後主義」の強固さは、政界や

言論を支配し、斯く身辺に及ぶ。

この日、朋友と右を語りその冷

厳を確認した。(相談役)

大会にご臨席された高円宮様は「広い視野に立った伝統」思考を導かれました。国内外の様々な立場の方々や接される時享受された自らの伝統を、明るく軽やかにお伝えなさるお姿は、私どもの範鏡と思えてなりません。祭事・祭典など、さりげなく不断に、持続することの大切さが、今大会のテーマではないかと存じます。岡野先生のお話も的を得ていて、各地方に、多種のスポーツで一流の指導者を育てようとする夢や、西高辻会長との対談も、人々を育てる庭づくりにつながったもので、共感致しました。全国の事とはいえ、地区神青として一年間、渉外部を中心によく計画され、当日も五十名ほどの委員の方々も、長時間の警備や各所の補佐など、ご苦勞があった事と思えます。また、前回の大会の経験も今回に生かされていたと感じました。大会の記録映像を拝見するのが楽しみです。

平成六年六月一日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神社庁内
電話二四〇四―六五二五(代)